(大正八年三月廿日 第三種郵便物認可)

十二日刊

磐城時報

福島縣石城郡平町字神圍町十四
發行人 岡田弘威
印刷人 福島縣石城郡平町字鍛屋町十四
印刷所 加納活版所
發行所 磐城時報社
一部金貳錢一ケ月分金拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊

貨物輸送から見た 平地方の景況

發送、到着、在貨數まで大減少 うかがはれる不況の色

平驛に於ける昨今の貨物移動景況は依然として一進一退の惰勢に引摺られて三月以降は更に閑散不振を加へ僅かに肥料の到着輸送に依つて一時的繁忙を呈してゐるに過ぎない、三月中に於ける主なる貨物の發着噸數を見ると

▲發送（單位噸）

米二一、木材一九八、木炭四〇、石油八〇、鹽六〇、酒二五、煉瓦二五七、その他合計二九〇三噸

で昨年同期に比し九十一噸の增前月より百三十噸の減を示してゐる、また

▲到着

米三五一、麥四八、大豆八九、果實一二一、木材六四〇、石炭六四五一、石油二三五、鹽七三、砂糖一四六、酒八一、ビール三三、肥料二二〇、セメント一三三、その他合計一三一五一噸

で昨年同期に比し二千五百三十八噸前月に比し千七百八十三噸の減少を示してゐる、右に徵しても平地方の貨物輸送が如何に萎靡沈滯の狀況に在るかゞ窺はれる、從つて在貨噸數に至つては前年に比べた話にもならぬ程の大減少である、即ち今春の磐城地方の一般の

經濟界

が如何に沈滯不況に引摺られて一進一退の惰勢に引摺られて三月以降は更に閑散不振を加へ僅かに肥料の到着輸送に依つて一時的繁忙を呈してゐるに過ぎない、三月中に於ける主なる貨物の發着噸數を見ると

▲發送（單位噸）

米二一、木材一九八、木炭四〇、石油八〇、鹽六〇、酒二五、煉瓦二五七、その他合計二九〇三噸

で昨年同期に比し九十一噸の增前月より百三十噸の減を示してゐる、また

▲到着

米三五一、麥四八、大豆八九、果實一二一、木材六四〇、石炭六四五一、石油二三五、鹽七三、砂糖一四六、酒八一、ビール三三、肥料二二〇、セメント一三三、その他合計一三一五一噸

で昨年同期に比し二千五百三十八噸前月に比し千七百八十三噸の減少を示してゐる、右に徵しても平地方の貨物輸送が如何に萎靡沈滯の狀況に在るかゞ窺はれる、從つて在貨噸數に至つては前年に比べた話にもならぬ程の大減少である、即ち今春の磐城地方の一般の

經濟界

が如何に沈滯不況に引摺られて三月以降は更に閑散不振を加へ僅かに肥料の到着輸送に依つて一時的繁忙を呈してゐるに過ぎない、三月中に於ける主なる貨物の發着噸數を見ると

▲發送（單位噸）

米二一、木材一九八、木炭四〇、石油八〇、鹽六〇、酒二五、煉瓦二五七、その他合計二九〇三噸

で昨年同期に比し

九十一

噸の增前月より百三十噸の減を示してゐる、また

▲到着

米三五一、麥四八、大豆八九、果實一二一、木材六四〇、石炭六四五一、石油二三五、鹽七三、砂糖一四六、酒八一、ビール三三、肥料二二〇、セメント一三三、その他合計一三一五一噸

で昨年同期に比し二千五百三十八噸前月に比し千七百八十三噸の減少を示してゐる、右に徵しても平地方の貨物輸送が如何に萎靡沈滯の狀況に在るかゞ窺はれる、從つて在貨噸數に至つては前年に比べた話にもならぬ程

入山と坑夫組合 相對して宣傳戰

形勢惡化を憂慮して 平署で成行を警戒中

湯本町入山炭礦で曩に坑夫組合に加入してゐる坑夫四十三名を、坑內奥の一部に溫床の高い所はあるが作業上の心配はない、扇風機の故障も十二三日中に修理が出來ると辯明してゐるものの何時形勢惡化せぬとも限られないので平署では成行きを監視警戒中である。

日勞黨支部 平町で發會

去る一日仙臺市輜重隊第二大隊第二中隊に入營した平町四丁目三三高野藤四郎四男高野四郎は十一日正午頃輜重隊を脫營して行衛不明になつた旨の報に接した平署では係官を平驛に派し警戒中の處同夜十一時頃平着列車で平驛に下車した處を捕へ留置の上十二日引取りに來た仙臺憲兵隊に引渡した。

入營したばかりで 脫營した青年 憲兵隊に引渡さる

▲江名農事講習 江名町農會主催農事講習會は十九日午前十時同村小學校に開き小塙技手、野村技師等の講演がある。

▲小名濱住宅組合 小名濱町は漁港としての完成に次いで商港促進の運動中で將來の發展は明白な事だから人口增加に伴ふ住宅難を叫ばるゝに至り小野務平氏等主唱で住宅組合を組織し資金の融通方を縣に申請したが極左傾の關東評議會系による勞農黨平支部の組織された關係もありこれが對抗上かくも出來るだけ速に結黨式を擧ぐる筈で來る十四日準備委員會を開くことになつたが多分結黨式は來る廿四日平町で擧ぐる事ならう。

▲煽風機工事 湯本町入山炭礦第五坑內に備付けてある煽風機のシャフトが折れたゝめ坑內が百度以上の溫度に達した處もあり會社では直ちに復舊作業に着手したが、完成までには十六日頃までかゝると。

苗代から收穫まで 一切共同作業

野村技師等の指導で 今年は更に組合員を增加

玉川村大字下坪農事實行組合では昨年度共同苗代並に共同田植耕作等を行つた處物質的に且つ精神的に頗る良好の成績をたさめたので本年度は更に組合員を勸誘增加し耕作地を十八町歩とし この苗代七反歩、之が籾蒔きから收穫までの作業全部組合員十二戶で共同に行ふ事となり十一日野村技師出張設計その他を了し十二日苗代作業に從事しその他耕作については着々準備中であるといふが、右組合は縣の指導組合で着々好成績をおさめつゝあると。

挽子共濟會 役員決定

平町人力車挽子共濟組合定時總會は十一日午後三時平町一丁目元協樂亭に開き役員改選後懇親の宴を開き散會した、役員如左▲會長菱沼佐太郎▲副會長江原幸之助▲會計中柴留太郎▲幹事鈴木太郎吉、高本要、渡邊慶次郎、大谷幸次郎、軍司春身、大內益治、高橋松藏、島貫利助、遠藤清、小野塚近之助

▲柏木氏令姉逝く いばらき新聞平支局長柏木哲氏令姉名古屋稅務監督局柏木諄氏夫人文子氏は病氣中の處八日死去した、遺骸は同市に於て茶毘に附し近く鄉里湯本町に葬ると。

◎臺所の歌

國際料理研究所 特派講師 杉林太美雄

艶のあるたまごは古きじちし にて 艶無きものは新らしきしな

縛られたり 泣面に蜂の男

草野村字赤沼生れ當時住所不定無職坂本ナツ（三八）は十一日午後七時頃平驛待合室に於て東白川郡高野村字添草綠川松五郎が腰掛けの上にたいた金十圓を窃取したので平驛駐在鈴木巡査に捕はれ十二日平檢事局に送られたが、綠川松五郎は十日平町に所用あつて來たもので當日は恰かも招魂祭の日で松ケ岡公園で泥醉し衆人に暴行を加へて平署檢束され一夜留置の上十一日朝放還されたもので、平町に來て散々な目にあつたとこぼしてゐる。

車と馬車が 衝突して負傷

平町長橋町米穀商加藤定吉（四三）は十二日午前八時頃荷車を挽いて研町を歩つてゐるうち荷馬車が來たので之を避けやうとした際荷馬車の材木で胸部を打ち昏倒したので上田醫院に入院したが全治一ケ月の重傷であると。

▲五丁目の盜賊 平町五丁目長谷川甚吉方で過般衣類十數点價格四十二圓余を窃取された事は既報の如くだがその犯人は水戶市生油行商人松本松次郎（三六）で判明水戶署に捕はる

飲料井戶に 糞尿を入れる

田村郡都路村生れ當時石城郡川部村東海炭礦坑夫赤坂吉春（三四）が九日泥醉してあばれ出し平素から同人の狂暴性に呆れてゐる附近の坑夫達が取しづめぬ事をいゝことにして坑夫長屋の共同井戶に糞尿を投げ或はガラスの破片を投入し更に近隣數戶の表戶を破壞するなど散々亂暴を働いた上悠々立去つたが十日午後植田署に捕はれ取調べ中である。

印刷物は 加納活版所

大瀧事件
第四準備書面
（五）

原告　平町
被告　縣知事川淵治馬
參加人　小田炭礦會社

三、被告は「尙上野原江筋に於て水の引用を爲しつゝあるものは獨り原告のみに非ずして磐城炭礦株式會社も同江筋より飲料水を引用するものにして其引水に當りては同江筋の水路の漏水止其の他の工事を爲したること原告と同樣にして從て原告主張の如く補修したる水路は凡て原告の管理する所と爲せば上野原江筋水路は之等引水者の管理する所なり江筋組合は自らの用水路に付何等の管理權を有せざるものと言はざるべからず」と主張す（被告第二準備書面第二項第三欵）然れども磐城炭礦株式會社は組合より江筋の流水分與を受け之を飲料に供し居るものにして原告の如く江筋を使用して流水を引用するものに非ず同會社が江筋の用水路を補修したることありとするも是緊要欠くべからざる飲料水の欠乏を事實上防止せんが爲め好意上爲したるものに外ならざれば原告の如く江筋を使用する權利を有し之が改築修理を爲し來りたると同一に論ずべきものに非ず又原告は單に江筋を補修したる事實のみに依り江筋の管理維持權を有すと主張するものに非ざることは原告の所論を精讀するときは自ら釋然たるべし又被告は組合が「用水路を他人をして管理せしめ其の任意に改築するが儘に放任するが如きことは事實上萬あり得べきことに非ざるなり」と論ず（同上）然れども原告は江筋を何等の制限なく任意に改築修理する權利を有すと主張するものに非ずして甲第二號證契約の約旨に悖らざる限り任意適當なる改築修理を爲し得るものにして又之を爲し來りたりと主張するものなれば被告は此点に於ても亦原告の主張を誤解せるものと謂はざるべからず

第三　水量及給水安全の侵害

被告が其第二準備書面第三項に述ぶる所の原告主張に對する反駁に付ては原告は既に提出したる準備書面に於て述べたる所に更に付加するの必要を認めず。

右の通りに候也

昭和二年四月六日

右原告代理人
岩田宙造
山根篤

行政裁判所第二部御中

讀者論壇
積極的施設の要望
吉田竹堂
（下）

故に吾等は先づ平町營業として決行を奬勵する二三の事業を提案して茲に大方の批判と研究とを囑望する次第である。

一、電氣事業町營　今後社會は益々複雜の度を加ふると同時に文化的施設を最も必要とする殊に電氣事業に於て甚だしき進化を見ることを想像するのである、此の時に當り平町は卒先して將來有望なる發電所を求め凡ての工業界に向て安價なる動力を供給し一面自家点燈料を低下せしめんには內外幾多の利益を收め得るのみならず地方開發に資することを蓋し甚大なるべきは言を俟たない事柄である、人偶々說を成して斯業の實現困難なるを唱ふるものあるも公營事業としては之れに如く有望なるものなく而かも其實行決して至難に非ざることを確信するものである、希くは町當局併に町民諸氏宜しく凡ての感情、情實等を一掃し最も冷靜に最も眞摯に踏査講究して一日も早く之れが實現を劃せられんことを熱祈するものである。

二、公設市場（魚市場、蔬菜市場）の開設　前述の如く附近各漁業地よりの集散する魚類其他の海產物の取引に就ては個人經營として極めて小規模なる魚市場の開設あるも近く實現せんとする片濱軌道併に平小鐵道の開通と相俟つて之等海產物の集散益々繁激を加ふるは燎かなる事實たるべく此の時に當り最も完全なる設備と最も便利なる方法とを以て營業取引の媒介を爲すに於ては一面營業者を保護し一面地方產業を紹介開發し更に本事業の相當利益を收め得て自他共に其便益甚大なるものあるべきを信ず、之れ本案を提唱して諸君の考究に俟つ所以である。

三、物產陳列所の開設　平町自營の根本策として商工業を奬勵し以て獨立自營を講ずることの最も喫緊事たることは前敍せるが如し、吾等は之れが第一歩として茲に物產陳列所を開設し廣く地方の物產を陳列紹介し更に他地方產出の各種商品を陳列販賣して之れが比較研究の資に供し以て地方產業の向上發展の運を講せんことを推奬したいのである。今や時代は科學的革進の過渡期にして其發達駸々として底止する處を知らざる狀態であつて徒らに舊態を墨守し其堵に安んせんか、忽ちにして時代の落伍者となること蓋し燎かなる趨勢である、故に此の時代に順應したる設備と方法とに依り常に嶄新なる智識と巧緻なる技術とを紹介し益々地方產業の開發に資せんとするものである。

以上は二三の例示に過ぎざるも平町をして最も殷賑なる商工業地として益々其の大を造成せしめんとするには更に幾多の積極的施設を敢行し以て完全なる大市制の實現を熱望して止まざる次第である。

公人私人

▲縣會議員木村清治氏　福島市から東京市を經て十一日夜歸平
▲技師野村直雅氏　大浦村行
▲磐越銀行中野甲藏氏　十二日歸平
▲江名町長河野嘉藏氏　來平
▲縣議小野晉平氏　福島行

編輯日記
（十二日）　馬村

▲夏井のおばあさん達五人の案內役に選ばれ成田山から日光を經て歸つた磐新坂本君の話「必らずその場を動かぬ事」が意外に効を奏し、一寸でも一團から後れた者は處かまわず直立不動、ヤレヤレと迎ひに戻るを今度は前が動かぬ、まるで傳令係りさ。
▲電車に乘つてホッとし汗を拭くと、今度は一同容易に剝かれぬ握り飯の紙を剝がし出す貴顯紳士は何事かと眺めてゐる。
▲日光着。店頭の若い西洋婦人に近より先づ腰を伸ばしてその頭髮に手を觸れ檢分し「年寄りだ白髮が生えてゐる」は來だよい「お前の國はどこだロシヤかね」と詰問。その顚末は便所に行つたので聞かぬ話終つた坂本君、涙をふく。

カシキモノ
貸衣裳
平古鍛冶町一
茗荷屋貸衣裳店

櫻期を飾る大巨篇來る
東京日々新聞連載
三上於兎吉原作
潑剌たる近代的女性を描いた大映畫現代の戀愛經過であり女性鏡とも云ふ可きもの
村田實監督作品
日輪　前十四卷　後全部上映
問題の人岡田嘉子主演
戀愛繪卷の解剖映畫
當る十四日封切
平館

春着
モスリン着尺とセールとネル
羽二重片側帶地
春柄提供!!
良品廉價
良い賣ひ
の店
大賣出し
店員募集
女店員募集
事務員募集
中野吳服店

松ヶ岡公園に
春は訪る
軈て三春行樂の巷と化す—公園池畔の
春の情景
をば慕ひあれ
松ヶ岡公園池畔　電話二二六番

平町病醫院案內

胃腸
內科
專門
十二指腸虫病
梅毒
淋病
婦人病
包茎
肛門病
專門
平南町
松村病院
電話一〇七

內科・外科・耳鼻咽喉科・花柳病科
高久病院
院長高久忠
平町電話一三五

往診診察無料
其他實費
平町實費病院
◎看護婦高給募集【電話五五一番】

原田科醫院
平町土橋通り
電話三一番

外科一般、婦人科
耳鼻咽喉科
慈恵醫學士新妻由五郎
日本醫學士高橋貢
赤心堂病院
田町電話四七五

外科
專門
入院隨意
上田外科醫院
南町電二二九

平町紺屋町
吉田眼科醫院
電話六八番

大和田醫院
耳鼻咽喉科
平町南町
電話一七〇番

內科・小兒科
淋病科・黴毒科
藤沼醫院
平町紺屋町
電話園五〇七番